

2020.6
ザ・ラタ

情報誌ガバナーズレター

Vol.02



2019～2020年度

ライオンズクラブ国際協会 337-D 地区

THE LION TIMES



YCE派遣生 帰国派遣報告書 (2019～2020年度)



No.	派遣国	派遣期間	派遣生	スポンサークラブ
①	シンガポール	夏期 (2019.08.04～2019.08.19)	鮫島 未羽	(鹿児島さつまLC)
②	マレーシア	夏期 (2019.07.17～2019.08.17)	上原 涼	(沖縄 L C)
③	イタリア	冬期 (2019.12.18～2020.01.07)	川地 志乃舞	(鹿児島城山LC)
④	マレーシア	冬期 (2019.12.19～2020.01.08)	徳永 芽遥	(鹿児島黎明LC)
⑤	マレーシア	冬期 (2019.12.18～2020.01.09)	山口 正翔	(鹿児島中央LC)



—2019～2020年度—

ライオンズクラブ国際協会
337-D 地区 キャビネット事務局

〒900-0032 沖縄県那覇市松山2-1-12 合人社那覇松山ビル308
TEL.098-864-1640 FAX.098-864-1192 E-mail.lion003r@estate.ocn.ne.jp

●発行：地区ガバナー L.玉城 清重

●編集：地区情報テクノロジー委員会

●地区スローガン

「ニーズに応える奉仕活動」

●地区ガバナーテーマ

「友情」絆を深めよう

報告書

FILE.01



YCE派遣生
 鮫島 未羽 (スポンサークラブ
 鹿児島さつまLC)



- 派遣国：シンガポール
- 派遣期間：夏期（2019.08.04～2019.08.19）



高校最後の最高の思い出

初めての海外「シンガポール」

私は、8/5～8/19の2週間YCE派遣学生として、『シンガポール』に行ってきました。初めての海外、鹿児島県から1人、そして高校3年という受験真っ只中という3つの不安があり、楽しみではありながらも少し不安を感じていましたが、いざ、シンガポールに行ってみるとシンガポールのライオンズクラブの方々、日本人のYCE派遣学生の皆が優しく楽しく接してくれたので、とても安心して過ごすことができました。



シンガポールでは、毎日シンガポールのライオンズクラブの方々が私たち日本人のYCE派遣学生を連れて、シンガポールの街観光をしてくれました。毎日スケジュールが詰まっていた忙しかったですが、充実していました。

シンガポール人は、英語だけではなく、少し中国語混じりの英語を話したりしていてシンガポールの独特な話し方もあり、相手に伝わらない時もありましたが、暮らしていくと意外と聞き取れるようになっていて嬉しかったです。

日本とシンガポールの違い

シンガポール観光をしていると、日本とシンガポールの違いを感じ、学ぶことができました。

特に私が思ったことは、日本人と比べてシンガポール人はフレンドリーだと思いました。ご飯を食べている時、「その料理はどこにありますか?」「その料理おいしいですか?」「どこから来たんですか?」などいろいろな質問をしてくれたり、写真を撮ってもらう時に通りすがりの人に頼むと100%の確率で写真を撮ってくれて、撮った後に「ばいばい」と挨拶までしてくれました。最後の挨拶までするのは日本人では出会ったことがないので感動しました。

他にも、建物すべてが高い、朝から結構食べる、トイレに入るのにもトイレペーパーにもお金がかかるところがある、エレベーターのボタンの数字と階が違うことがある、ココナッツ系を使用する料理が多い、車の助手席に人を乗せない、とタクシーと間違えられるなどいろいろありました。





お世話になったホストファミリー

そして私がお世話になったホストファミリーのお家は、二階建ての一軒家でしたが、家にはホストファザー、マザー、2人のブラザー、グランドマザー、そして家政婦さんと犬までいました。私は家政婦さんや犬がいる暮らしをしたことがなかったので、すごく新鮮でした。ホストブラザーは社会人だったのであまり会話をする機会がなかったですが、他の家族とは、話をたくさんできていい経験でした。



いろんなことに「try」

他にも有名なMarina Bay Sands hotel、Botanic Garden、Gardens by the Bay、Changi空港のJewel、USS、Bugis street、シンガポールの動物園、マーライオンなどいろいろ見ました。ご飯はほぼ毎日朝昼夜中華料理でした。

日本の次に水が安全な国らしいので公園の水などは飲んでませんがおうちに湯煎されたお湯などが毎日置いてあり水を買う必要はほとんどありませんでした。オレンジジュースが日本より美味しかったです。ドリアン、マンゴースチンを初めて食べましたが、ドリアンは匂いも味もきつかったです。マンゴースチンはとても美味しくてたくさん食べました。ホストファミリーやライオンズクラブの方々にたくさん『trytry』と言われて人生で一番tryをした年になりました。日本とは違って、嫌いなものははっきりと言わないと食べられるので「YES NO」はしっかりするようになったとおもいます。

今回の経験と出会いに感謝

シンガポールに行って、日本でも滅多に着ない浴衣や歌わない懐かしの曲、ダンスなどをして日本人のYCE派遣学生全員で舞台上に立って発表したり、一人一人の出し物などをする事で前に立つことに少し慣れました。

キャンプがなく他の国の人たちとの交流がなかったのが少し残念でしたが、このような機会を作ってくださったライオンズの方々、たすけあい協会の方々、そして家族に感謝の気持ちでいっぱいです。とてもいい経験になりました。

この経験を今後色々な事に活かしていきたいと思います。本当にありがとうございました。



報告書

FILE.02



YCE派遣生
上原 涼 (沖縄 L C)
スポンサークラブ



- 派遣国：マレーシア
- 派遣期間：夏期（2019.07.17～2019.08.17）



当たり前から広がる世界観

今回私は2箇所のホストファミリーにお世話になりました。
そこで、みなさんは「当たり前」という言葉を聞いて、それは
どういう意味なのか考えたことはありますか？
私は今回のマレーシア留学を通して私たちに与ったの当
り前は、本当にそうなのかと考えさせられました。
私が実際にホームステイをしてみて**日本と異なると感じた
点は4つ**あります。



衣食住の違い

1つ目は、衣食住の違いです。マレーシアは多民族国家とい
うこともあり、同じ学校の生徒であっても宗派の違いで制服
も変わってくるのです。
また、日本はお店で水を飲む時は無料で飲める所が多いで
すが、それとは逆に追加料金が発生してしまうので現地の
人々は自分自身でボトルを持ち歩いているのです。
さらに、住宅街に入る時はそれぞれのエリアが決められて
いるので出入りの際には管理官のいるゲートを通らないと
いけません。

学校についての違い

2つ目は、学校についての違いです。日本では月曜日から金
曜日まで登校し、土日が休みですが、セカンドファミリーの
学校は日曜日から木曜日まで登校し、金曜日と月曜日が休み
なのです。また、授業は7時30分に始まり14時に終わるので、
ほとんどの生徒が家で朝ごはんを食べずに学校の食堂で
10時頃に食べます。

さらに、授業は学びたい授業だけ受けることもでき、授業はグ
ループ内で話し合いをして進めたり他のグループと交流した
い時にしたりと自由なことが多く、日本で言う大学制度のよう
な感じでした。通学についても、マレーシアは車の免許が17歳
からとることができるため、自動車で通学することも可能です。

ショッピングモールでの違い

3つ目は、ショッピングモールでの違いです。日本の大型
ショッピングモールの駐車場に色によってエリアが分かれ
ているのと似ているように、マレーシアでは女性専用の駐車
場があります。

また、大型のカートは鍵で繋がれているので使用する際
には硬貨を入れ、返す際に戻ってくるというシステムでした。
さらに、日本でも駅とショッピングモールが連結しているこ
とは多々ありますが、マレーシアのショッピングモールは駅
だけでなくホテルやプールと連結している所もありました。





交通機関の違い

4つ目は、交通機関の違いです。車線は基本片道3車線から4車線あり、高速道路ではない所の道の原則が80キロと速いので道路を渡る際には細心の注意が必要となってきます。また、住宅街には自動車やバイクのスピードの出しすぎを抑えるために、道路が少し出っ張っている所が等間隔にありました。さらに、バイクには自分でカゴを設置し子供を乗せたり、大人と大人の間に子供を乗せたりと1台のバイクに最大4人も乗っている家族もいました。

「当たり前」ってなんだろう？

これまで多方面からの日本とは異なる点について述べましたが、1番の違いは「衛生面の違い」です。

多くの人が利用する屋台のテーブルは使い回しの布巾で拭いたり、トイレにはトイレットペーパーがなかったりと衛生面には少し欠けている部分がありました。

しかし、そう感じているのは私達が日本人であるからだと思います。現地の人々からすれば、このような事が「当たり前」なのかもしれません。

私達日本人は汚れていたら石鹸で拭いたりトイレットペー

パーがなかったら交換したりと何においても常に清潔な状態を保つことができています。

それが「当たり前」ではないということにみなさんは気づいていますか？これは日本に居るだけではもちろん気づく事も出来ないし、人から聞いたり本やネットの情報で見たりするだけでは、日本の豊かさには気づきづらいと思います。実際に現地へ行き、体験してみる事で苦労や辛さがより伝わってきます。

「当たり前」という言葉は国や人によって様々な基準があるので、視点を変えて物事を考えることで自分自身の世界観も広がるということを今回の留学を通して気づきました。

みなさんも1度「当たり前」ってなんだろうと疑問を持つてみることから始めてみませんか？

今回はこのような貴重な体験をさせていただき本当にありがとうございました。この経験をこれからの生活に生かし、以前の自分とは一回り成長した姿を見せて行けたらいいなと思います。本当にありがとうございました。



報告書

FILE.03



YCE派遣生
川地 志乃舞
スポンサークラブ
(鹿児島城山 LC)



- 派遣国：イタリア
- 派遣期間：冬期（2019.12.18～2020.01.07）



YCE派遣を終えて 国際交流で学び、感じたこと

初めての海外「イタリア・シチリア島」

私は今回の冬季YCE派遣で初めて海外に行きました。少し不安もありましたが、ライオンズクラブで行われたオリエンテーションや英会話教室に参加することで、心の準備をすることができました。



私の派遣先はイタリアでした。鹿児島から飛行機で名古屋中部国際空港、フランクフルト国際空港、ローマへと乗り継ぎ、ホストファミリーの待つカタニーヤ（シチリア島）まで4回の乗り継ぎが必要でした。

フランクフルト空港にて一人で乗り継ぎをする時は少し大変でしたが、近くにいた人に尋ねると快く教えて下さり最終目的地まで問題なく行くことができました。

ホストファミリーと過ごした一週間

最初の一週間は、ホストファミリーと過ごしました。シチリア島のモディカという綺麗な町でした。

ホストファミリーは有名なチョコレートのお店やピザのお店、教会など、様々な場所を案内してくださいました。

また、モディカの市町との面談や、ホストファミリーの加入しているライオンズクラブの例会、年に1度開かれるレオクラブのパーティーにも参加することができました。

日本と同じように存在するイタリアのライオンズクラブを実際に見て、ライオンズクラブの偉大さや歴史を感じました。

言葉が通じなくても落ち着く空間

ホストファミリーと過ごした1週間ではクリスマスが心に残っています。親戚や家族で集まり、食卓を囲み家庭料理を楽しみました。

私はイタリア語を話すことができません。しかし、ホストファミリー先では「言葉が通じなくても落ち着く空間」というものを初めて経験しました。私を温かく迎え入れてくださったことを心より感謝しています。





異国の地で「キャンプ」に参加

ホームステイを終えて2週間のキャンプに参加しました。様々な国の15歳から21歳くらいまでの学生が30人ほどのメンバーでした。その中に日本人は12人でした。

このキャンプでは、トリノからスタートし、エジプト博物館や、自動車博物館、鉱山博物館、ピサの斜塔、ヴェネツィアなど多くの場所を周りました。

歴史のある建物でもデザインが細かく繊細で素晴らしいもののばかりでした。観光地ということもありますが、どこにいてもイタリアに住んでいると思われる家族が多かったように感じます。

メンバー内のイタリア人の学生もとても歴史に詳しくかったです。幼いころから歴史を学ぶ環境があるように思いました。自分の国の歴史を知っておくことは素晴らしいことだと思います。私も日本の歴史をより勉強しようと思いました。

国際交流で学んだこと

また、2週間様々な国のメンバーと一緒に過ごすことで学ぶことも多くありました。

日本人は自己主張が他の国に比べて少ないです。メンバーの約半分は日本人でありながら全体で意見を求められる時、日本人は意見を出すことができませんでした。私も含め、自分の意見を主張することに抵抗があります。しかし、意見を持っていないわけではありません。

ライオンズクエストという道德の授業のようなものが行われることがありました。

先生から、「様々な感情を持つ人がいる中で団体行動をする

にはどのような気持ちが必要ですか」という問いがありました。その時日本人は答えることはできませんでしたが、他のメンバーから「自尊心」や「積極性」などという意見が出てきました。それらはとても大切なことで、私たちに1番足りないことなのかもしれません。

しかし、意見は出せなくても日本人の意見としては「思いやり」や「協調性」という気持ちがあったと思います。

この気持ちは、日本人の誇りに思うべき気持ちなのだと私は感じました。

経験を活かして立派な社会人に

初めて訪れる場所で、初めて会う人に囲まれた3週間で多くの経験をして、たくさんのことを学びました。私がYCE派遣に参加することにあたり、多くの支援をして下さったライオンズクラブの皆様、本当にありがとうございました。

この経験を活かしてこれから立派な社会人となれるよう努力していきます。



報告書

FILE.04



YCE派遣生

徳永 芽遥

スポンサークラブ

(鹿児島黎明 LC)



●派遣国：マレーシア

●派遣期間：冬期（2019.12.19～2020.01.08）



「トウリマカシ」～ありがとう～

派遣報告を行います。令和1年12月19日から令和2年1月7日の19日間、マレーシア、クアラ・ルン・プールのホームステイをさせていただきました。

福岡、シンガポールを経由しマレーシアに到着しました。時差は1時間であり、気温は30度ほどで、鹿児島の夏の気候に似て蒸し暑い気候でした。

マレーシアには鹿児島から2名、宮崎から1名、福岡から6名の計9名で参加しました。最初からみんな仲良しで、お互い励まし合い、不安は小さくなっていました。

マレーシアの「パパとママ」

私のホストファミリーはマレーシアのケダ地区という地域にあり、鹿児島市に似た町並みで静かな町でした。

ホストファミリーはパパのジョアン、ママはずっとママと呼

んでいました。パパはとにかく話が長いことが特徴のパパでした。ママは目力の強いインパクトのあるママでした。

3人子どもがいて姉のリッキーは面倒見がよく、優しい存在で、兄のカイザはユーモアがありで面白い人でした。妹のジョジョはお茶目で素直な子で素晴らしい理想の家族でした。

ホームステイ中は買い物に行ったり、現地の小学校や高校を見学したり、新年のナイトマーケットに行き、楽しい時間を過ごすことが出来ました。

小学校、高校での教育現場の見学では一生懸命な学びを大切にする教師と生徒の真剣な眼差しと、楽しい雰囲気の中で共感を受けました。

別れの際はパパやママから、「本当の娘だと思っているからいつでも帰っておいで」と涙ながらに言われ、泣いてしまいました。





出会った当初はコミュニケーションが難しく不安だらけでしたが、一生懸命コミュニケーションをとり、思いを真剣に伝えることでお互いの気持ちが伝わるという感動を覚えました。

一生懸命さが相手に伝われば 言葉が通じなくても気持ちは伝わる

マレーシアで生活し、人とかかわることでマレーシアの人はマイペースで穏やかで優しく、面倒見がいい印象です。

また、人との積極的にコミュニケーションをとる事を得意とし、日本人とは違った民族性を感じました。

また、日本人である私は消極的で遠慮深く、自己主張が出来ない人物でしたが、異文化に触れチャレンジすることへの大切さや、一生懸命な姿勢が相手には言葉が通じなくても伝わることへの感動を覚えました。

患者様に寄り添える看護師として 日本の医療のチカラになりたい

私は看護学校に通学し、勉強しています。将来看護師になり患者様に寄り添い日本の医療の力になりたいと思います。この経験は今まで私が感じなかったエッセンスがたくさん詰まってました。しっかり今後に関わり頑張っていきたいと思います。またしっかり働いてパパ、ママに会いに行きたいと思います。

この度は私にたくさんの経験をさせていただきありがとうございました。これからも私の看護師としての成長を見守っていただければ嬉しいです。ありがとうございました。

「トゥリマカシ」とはマレーシア語で「ありがとう」です。

たくさんの皆様に「トゥリマカシ」。

これからも一生懸命頑張ります。



報告書

FILE.05



YCE派遣生

山口 正翔

スポンサークラブ

(鹿児島中央 LC)



●派遣国：マレーシア

●派遣期間：冬期（2019.12.18～2020.01.09）



マレーシアでの経験を将来へ繋げたい

私は2019年12月19日から1月8日までライオンズクラブのご支援のもとマレーシアに派遣させていただきました。

私のホストファミリーはみんな優しい方達でとても充実した生活をおくることができました。



マレーシアで経験したこと

私のホストファミリーは西マレーシアのAlor Setarという場所に住んでいて、16歳の長女と18歳の長男、11歳の次男の5人家族でした。みんな自分のことを歓迎してくれてとても嬉しかったです。

Alor Setarからは有名な観光地であるペナン島が近く、ホストマザーの友人のファミリーと旅行に行ったりしました。ペナン島での思い出は、ショッピングに行ったり、からくり博物館に行ったりなど数えきれないほどあります。

特に思い出に残っているのはクリスマスの夜に公園で過ごしたことです。マレーシアは12月でもとても暑く、目にするサンタはどれも半袖で、初めて見る光景でした。

私は日本でお好み焼きの作り方を覚え、ホストファミリーと一緒に作りました。日本から多めに材料を持ってきたの

で、他のホストファミリーやライオンズの事務所で作ったりもしました。みんな美味しそうに食べてくれたのでとても嬉しかったです。

ボランティア活動・国際交流

マレーシアのライオンズでボランティア活動として飲み物やお菓子、お米などを寄付する手伝いをしました。

その際、お米を精米する工場を訪れる機会があり、そこで見たお米は日本のお米より細長く、少し大きいものでした。

12月29日から31日までWinter Campがありました。

現地の人との交流や、洞窟に行ったり、ダンスを踊ったりもしました。他の国の人と話したりしていると文化の違いなどがよくわかりました。

ライオンズクラブには私にたくさんの人との出会いや、経験をさせていただきました。

これから私は、自分が経験したことを将来に繋げることができるよう努力していきたいと思います。最後に、今回このような機会を与えてくださったライオンズクラブの皆さんには心から感謝しています。本当にありがとうございました。

